



龍門

題字は石野忠氏の揮毫

発行者
関東小山田会
(鹿児島県加治木町小山田を愛する会)
第6号
平成23年10月18日

東日本大震災に遭遇して

「田老」という町

会長
二之方 信良



世界的に有名な、田老の津波防潮堤

小山田会の皆様にはお変わりなくお過ごしのこととお慶び申し上げます。まず、はじめに今回の東日本大震災によって被災されました方々、あるいは関係者の皆様には心よりお見舞い申しあげます。この大震災のため当会でも四月に予定しておりました十二回「関東小山田会」を中止させて頂きました。歴史のある会でもあり、再会を楽しみにされていた多くの会員の皆様のご期待に添うことができず誠に残念ですが、事情ご賢察のうえご了承頂きたく思います。

(次頁へつづく)

今回の大震災では私も多くの得難い経験を致しました。

恥ずかしながら周りの者が、前田農園と呼ぶその畑は、自宅近くの農家の方から借りた百二十坪ほどの広さの農地で、近くを上越新幹線が走る場所にあります。



120坪ほどの農園

長年、勤めた会社を定年になって、本格的に始めた私の土いじり、それまでは作物の植え方など面倒なことを考えないで、幼い頃のふるさと小山田での生活を思い浮かべながら、自己流で始めた私の畑仕事の話です。



前会長
前田 博

わたしの農園

ほかに長年の趣味である盆栽については、鹿児島の県花であるみやまきりしま(つつじ)を自宅の



ビニールハウス内の盆栽

トマト、茄子、胡瓜、オクラ、南瓜、ピーマン、白菜、キャベツ、ホウレン草、人参、牛蒡、里芋、葱、大根、枝豆、インゲン、ゴーヤ、ニラ、蒟、獅子唐、茗荷、アスパラ、ブルーベリー、生姜、西瓜、落花生、とうもろこし、苺、大葉など、珍しい物ではサンチュ、菊芋、つくね芋などを所狭しと植えています。毎日の収穫をとっても喜んでくれて、様々な料理として食卓に並べてくれる家内と、それらを美味しく食べてくれる子どもや孫らの顔をみるのが至福の時であります。

健康に生きていく上で不可欠な食物、より安全で質の高い物を求めるならば……と、百分の自給自足生活を目指して、一時は稲作までを念頭に置きましたが、賢明な家内に反対されて八〇%程度の自給率に留めながら、日々の生活をおくっています。このように多くの植物に囲まれて、それらの栽培や世話に追われる一日は、有楽町の職場まで通勤していた頃よりも多忙な毎日になってしまいました。



町の広報誌(表紙)より

庭だけでは収まりきれずに、写真のような土地を借りてビニールハウスを作り楽しんでいきます。また、盆栽では町の講師として、地域の方々と交流を図っています。左の写真はその時のひとコマです。



三月十一日はちようど地下鉄大手町駅のホームに降りたつた直後に地震に遭遇しました。その時は特に混乱もなくこれほどの大災害となるとは予想もしませんでした。近くのビルの通路にあるテレビで刻々と映し出される映像に息のみました。その後には上野のオフィスまで歩き、多くの方と同様帰宅難民となり、そこで一夜を明かしました。



防波堤を越える真つ黒に染まった波

私共の会社は岩手県の宮古市に工場があります。が、全く通信不通、社員の安否、設備などの被害状況確認もままならず、災害時の通信の大事さとその脆弱さをまず真つ先に思い知らされました。次に痛感したのが物流の重大さと

またその脆弱さです。救援物資を送ろうにも送れず（緊急に何が必要かも把握できなかつたのですが）、数日後に生産を再開して製品を出荷しようにも出荷できずという状況でした。お陰さまで工場は高台に位置していることから人的・物的の直接の被害がなかつたのは不幸中の幸いでした。津波などで多くを失った方々に比べると感謝以外にありません。

宮古などの三陸海岸はご存じの通り風光明媚な所として有名ですが、一方で過去に大きな津波被害を受けてきた所としても有名です。私共の工場から車で十五分ほどの所に今回の津波報道でも多く取り上げられた田老という町があります。



防潮堤が流された震災後の田老

ウニ漁で有名ですが「津波太郎（田老）」の異名をとるこの町は、明治二十九年の大津波で全戸数が流失、死者千八百五十九名、昭和八年にも死者九百一十名など度重なる津波被害に耐えてきた町です。



一面ががれきの山の田老

一方でこの町は日本一の防潮堤を作って自分たちの町を守ろうという積極策をとってきたことでも有名です。ご覧になった方もあるかと思いますが、三方を山に取り囲まれた小さな入り江に住宅が密集している三陸海岸ではよく見られる地形で、街並みを取り囲むように港との間に海寄りと内寄りの二重構造の高さ約一〇メートル、総延長約2.4キロといわれる防潮堤があります。昭和八年の津波直

後から長年月をかけて営々と築いてきたというそれは立派なもので、各地から見学に訪れる人も多いたか。しかしそうした努力も今回の大津波は想定をはるかに超える高さで押し寄せ、あつけなくその自慢の防潮堤を乗り越え、破壊し、またもや大きな被害を出してしまいました。



大防潮堤を簡単に乗り越えた津波

逆に自慢の防潮堤があるがために過信をうみ、逃げ遅れた方も多かつたと聞きます。こうした今回の災害の状況を見聞きするにつけ、自然の脅威のすさまじさ、人間の営みの小ささを思わずにはいられません。千年に一度といわれる大災害ですが、今回の大災害が大自然とのつき合いかたあるいは家族、地域、社会のつながりを大切に

すること等々日頃忘れがちな大きなものを我々に教えてくれたように思いますし、禍が転じて福となればと願っています。



街ごと消えた田老

来年の総会は四月二十一日（土）を予定しております。その時にまたお会いできるのを楽しみにさせていただきます。最後になりましたが、会員の皆様とご家族の皆様のご健勝を心より祈念申し上げます。

（編集担当より）
当会の二之方会長が長年、社長として経営されていた会社の本社工場は福島県の郡山に、主力工場は岩手の宮古にありました。この度の東日本大震災に遭遇されて多忙を極めておられました。六月をもって退任されましたので、厚かましく無理に本号原稿を依頼しました。また、本文中の各写真は宮古市のホームページより転載して挿入させて頂きました。

波乱万丈の戦後六十六年を回顧して II



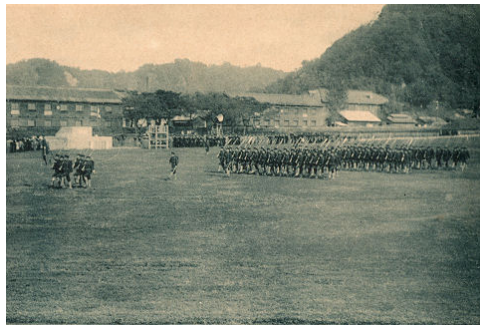
上 齒 悟 先生

昭和29、33年 竜門小教諭

さて、戦後六十六年を回顧してみると、いろいろな事件に遭遇しました。

①終戦の前年昭和十九年に、僕の従兄弟に召集令状がきたので鹿兒島の伊敷練兵場へ行きました。叔父叔母そして僕の三人も見送るために入隊式典に参加しました。多くの新兵と見送りの人が来ていましたが、突然米機編隊が爆撃と機銃掃射を浴びせてきました。僕達三人は近くの島津邸の黒門へ避難したのですが、叔父の頭に弾丸が貫通し即死しました。それで叔父を軍の慰霊室に置かしてもらって、加治木に帰るために鹿兒島駅に向かいました。ところが駅は見る影も無く爆撃で

崩れ落ちて、硝煙の中、軍人の遺体が数え切れないほど飛び散ったり重なりあっていました。直ぐ無我夢中で走って帰りました。今でも惨状は夢に見ます。



旧陸軍歩兵第45聯隊の伊敷練兵場

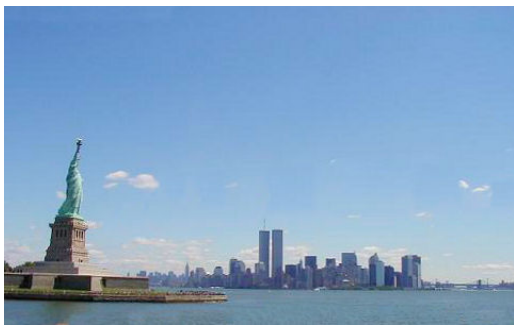
②終戦前昭和十九年に国家から戦時学徒動員令が出て翌年県立加治木中四・五年生全員が名古屋と富山へ航空機制作のために出征しました。然し動員の途中僕は進学受験のため三人の学友と帰郷しました。でも山陽本線で帰る途中、突然夜間空襲に合いまして広島で下車させられ防空壕に避難しました。もし遅れて帰郷していたら広島原爆の餌食となっていたのかも？

③富山の学徒動員へ行つて五十年も過ぎた平成七年九月に、富山で記念同窓会をする事になりました。その事前調査のため幹事三人で羽田空港へ集合しました。然し空港のテレビ前に沢山の人が集っていました。良く見たら、今乗って来た地下鉄であるサリン事件があつたのです。思わず全身が凍つたように思いました。幸い富山では五十年記念同窓会が新聞社四紙・テレビ三社に報道され町の大歓迎を受けました。

④教え子がナサ医療研究所にいたので招かれてワシントンDCに行きましたが、着いたホテルのロビーのテレビ前で多くの人が泣いていました。胸に十字を切っている人達もいました。画面にはトンネル内での交通事故の様子が映し出されて、ダイアナ妃の写真がクローズアップされ車の事故死を伝えていました。

これが僕の米国初上陸の初夜だったので。

⑤その米国滞在中に、たくさん写真の写しを撮りました。帰国した翌年に世界を震撼させたテロの航空機によるビル爆破事件がありました。あの双子の貿易センターが六枚もありました。勿論この事件を予測していた訳ではないのですが、素晴らしい双子ビルを眺めながら夢中でカメラのシャッターを切っていました。事件の日にモウモウと煙がたちこめていた道路も、その後大事件が起こることも知らずに楽しく観光していたのです。



ありし日のツインタワー

⑥でも悲劇だけでなく、次の様な楽しいことありま

す。

⑥竜門小での教え子さん達の中で、燦燦会(さんさんかい)と名付けた学年同窓会があります。この同窓会は、関西を中心に毎年開催して既に十数年も続いています。ギネスに申請したいくらいの立派な同窓会です。今までに、三重(伊勢) 岡山(倉敷) 兵庫(神戸) 東京(浅草) 中国(上海) 広島(宮島) 静岡(清水) 和歌山(高野山)などと毎年開催場所を移して、思い出が多く益々友情の絆も硬くなっているように思います。

お蔭様で、今は教え子さん達に教えられながら、老後を楽しく過ごさせて戴いております。

波乱万丈の六十六年！紙上に書き出せない事も多々ありますが、昭和史の語り部としての筆を置かせて戴きます。感謝！



よきとよいす

■金山橋の欄干が新しく■

金山橋は、島津家が明治13年頃に当時の加治木港を起点として山ヶ野金山に通じる道を開いたときに築かれたもので、およそ百三十年の歴史があります。長さ約23m、幅約4.2m、川床からの高さが約10mあり、そのアーチの中に上流の板井出の滝を望むことができます。

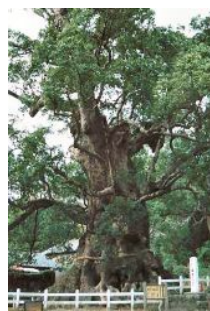
今年度、地域振興推進事業の導入により、欄干部分の修復工事が竣工しました。



(市報あいら5月号より)

■始良市の木・花が決定■

始良市誕生一周年記念式典において、始良市の象徴として定めた「市の木・市の花」が披露されました。



・市の花
やまざくら・つつじ



(市報あいら5月号より)

■恒例のくも合戦大会■

激しい雨の日が続いた今年の梅雨、その激しい雨が偶然に少雨状態となった六月十九日に恒例の「くも合戦」が行なわれました。



昨年は、口蹄疫の防疫のために中止となったために、始良市としては初めての開催となった今回でしたが、加治木福祉センターにたくさんの参加者・観客を集めて盛大に繰り広げられました。たまたま帰省中であった私は、初めての観戦体験となりました。



(編集担当が現地取材)

■ほ場で田植えの手伝い■

六月二十四日
東日本大震災被災地への支援米事業としての取り組みのために竜門小学校の児童が学校近くのほ場で田植えのお手伝いをしていく様子が紹介されています。



(市報あいら8月号より)

原稿募集中！

小山田の思い出、最近の状況、旅の思い出等何でも結構です。ご投稿をお待ちしています。写真等を添えて頂くと助かります。下記へお送りください。
〒225-0021
横浜市青葉区
すすき野 2-4-1-103
(編集担当) 柚木 一征

第12回 関東小山田会

日時：平成24年4月21日(土)
12時～14時30分
会場：三州倶楽部(三州郷土館)
東京都品川区上大崎 1-20-27
JR山手線目黒駅下車
徒歩約8分

■編集後記■

この会を設立していただいた先輩方のお話の中に、「私達の夢は、関東小山田会の会員が挙って懐かしい故郷の竜門小学校の運動会に参加すること・・・」と言う言葉があったことを忘れることはできません。この会報が故郷との懸け橋となり、いつの日か運動会の夢が叶うことを期待したいと思います。

年に二回となりますが、「市報あいら」等から故郷の身近なニュースを抜粋してお届けしていきます。本会としては、若い世代の会員を発掘することが急務となります。ご親族やお知り合いの方に関東近辺にお住いの方がございましたら是非ともご紹介して頂きたいお願い申し上げます。(柚木)